

平成 20 年 1 1 月 7 日

## 総合計画推進のための評価・改善の流れ（素案）

## 【総合計画推進フロー図】

		市		市民協働会議
		政策推進担当	推進会議	
ステップ 1	5～7月	評価・改善策の検討		
ステップ 2	7～8月		評価・改善策の確認	
ステップ 3	7～11月			評価・改善策の提案
ステップ 4	10～12月	市の対応案を検討		
ステップ 5	10～3月	実施計画・予算編成		
ステップ 6	3月		市の対応を確認	
ステップ 7	3月			市の対応状況を報告

**ステップ 1**：市の担当課（政策推進担当）による検討

（5～7月頃） → 行政の視点による評価と改善策の検討

① 担当課で指標の実績値を把握し、「まちづくり点検表（政策別シート）」を作成する。その中で、指標の推移をもとに3段階の評価を行う。

「順調」・・・おおむね順調に目標値に向かっている。（目標を達成した。）

「横ばい」・・・現状維持や伸びが鈍いなど横ばい状態にある。

「不調」・・・目標値から遠ざかっている。

**ステップ 2**：市の総合計画推進会議による確認

（7～8月頃） → 行政の視点による評価と改善策の確認

① 担当課で作成した「まちづくり点検表（政策別シート）」をもとに総合政策課で取りまとめ・調整し、改善策の検討対象を絞り込むための「まちづくり点検表（総括シート）」の案を作成する。

② 「まちづくり点検表」を総合計画推進会議で確認し、総合計画市民協働会議へ提出する。

**ステップ 3**：総合計画市民協働会議による検討

（7～11月頃） → 市民の視点による評価と改善策の検討

#### ①指標の評価

主に市で作成した「まちづくり点検表（総括シート）」をもとに、目標指標設定の妥当性も考慮した上で、指標の推移を確認し評価を行う。

#### ②検討対象の絞り込み

指標の評価をもとに、改善策の検討対象とする政策分野の絞り込みを行う。  
また、必要に応じて、着目する指標の絞り込みも行う。

#### ③取組の改善策を検討

「計画推進ロジックモデル」を使って、市民の目線で改善策を検討する。

#### ④市に対して提案

検討した内容について、市民協働会議として取りまとめ・調整し、市に対して提案する。

##### \*評価の関する事項（例）

- ◇政策分野の評価に関すること
- ◇指標の推移を踏まえて重視したい政策や施策に関すること
- ◇評価の項目や目標値の見直しに関すること

##### \*改善に関する事項（例）

- ◇市の事業や取組に関すること
- ◇市と市民が協働で実施することで効果が高まる事業や取組に関すること
- ◇市民や団体等の主体的な活動に関すること

#### **ステップ4**：市の担当課（政策推進担当）による検討

（10～12月頃） →市民協働会議の提案に対する、行政の対応案の検討

- ①総合計画市民協働会議の提案への対応案を検討する。

#### **ステップ5**：市の実施計画策定作業及び当初予算編成作業

（10～3月頃） →市民協働会議の提案に対する、行政の対応案を踏まえた庁内作業

- ①総合計画市民協働会議の提案への対応案を踏まえつつ、実施計画の策定作業及び当初予算の編成作業を行う。

#### **ステップ6**：市の総合計画推進会議による確認

（3月頃） →市民協働会議の提案に対する、行政の対応の決定

- ①担当課で検討した対応案をもとに、実施計画策定作業及び当初予算編成作業を経た内容も踏まえて総合政策課で取りまとめ・調整し、市としての案を作成する。
- ②市としての対応を総合計画推進会議を経て決定し、総合計画市民協働会議へ提出する。

#### **ステップ7**：総合計画市民協働会議への報告

（3月頃） →市民協働会議の提案に対する、行政の対応状況の報告

- ①市民協働会議の提案への市の対応状況を報告する。

## 能代市総合計画 まちづくり点検表（平成20年度）政策別シート

## 1 政策のめざす姿や状態

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(1)	コミュニティで支え合う特色ある地域づくり
めざす姿や状態	①	ボランティアなどの活動をしやすい環境があり、情報や目標を共有できて交流や連携が進むこと。
—評価の目安— (^~^ ) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	自治会や町内会などの活動が活発になり、地域の課題解決や、地域資源を活かした身近なまちづくりにつながること。
	③	普段から地域で交流や協力、支え合いがあり、地域コミュニティが良好であること。

## 2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^~^ ) 順調	1	自治会・町内会やボランティア活動など市民活動に参加することを心がけている市民の割合																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>指標の推移 (自治会・町内会やボランティア活動など市民活動に参加することを心がけている市民の割合)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>37.8%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>39.3%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>40.0%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>40.0%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>40.0%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>50.0%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	割合	H19	37.8%	H20	39.3%	H21	40.0%	H22	40.0%	H23	40.0%	H24	50.0%	<p>福祉分野のボランティアをはじめ、除雪ボランティアや学校支援ボランティアなど、様々なボランティア活動が広まっており、市民活動への参加意欲も高まりつつある。</p> <p>これは、ボランティア養成等事業や各地域のまちづくり協議会の取組などが、徐々に成果につながってきているのではないかと考えられる。</p>	<p>市民活動への参加意欲の高まりを、地域づくりや地域コミュニティの再生に活かせるような取組を進める必要がある。</p>	<p>・市民へのボランティア情報の発信や、団体間の連携のための仕組みの検討。</p>
年度	割合																	
H19	37.8%																	
H20	39.3%																	
H21	40.0%																	
H22	40.0%																	
H23	40.0%																	
H24	50.0%																	

(^~^ ) 順調	2	ボランティアセンター登録者数																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>指標の推移 (ボランティアセンター登録者数)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>登録者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>5,148人</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>5,243人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>5,243人</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>5,243人</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>5,243人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>6,000人</td> </tr> </tbody> </table>		年度	登録者数	H19	5,148人	H20	5,243人	H21	5,243人	H22	5,243人	H23	5,243人	H24	6,000人	<p>福祉分野のボランティアをはじめ、除雪ボランティアや学校支援ボランティアなど、様々なボランティア活動の広まりを受け、順調に推移している。</p> <p>高齢化や核家族化などの進行により、家庭機能が低下し、近隣社会で助け合いの人間関係が希薄になりつつある中、人と人との絆を生み出すボランティア活動への関心の高まりが、登録者数の増加につながってきているのではないかと考えられる。</p>	<p>ボランティアが活動しやすい環境づくりや、情報や目標を共有して交流・連携できる仕組みづくりを進める必要がある。</p>	<p>・ボランティア登録者が活動しやすい環境づくりや、交流・連携のための仕組みの検討。</p>
年度	登録者数																	
H19	5,148人																	
H20	5,243人																	
H21	5,243人																	
H22	5,243人																	
H23	5,243人																	
H24	6,000人																	

能代市総合計画推進ロジックモデル（市民協働会議）

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(1)	コミュニティで支え合う特色ある地域づくり

現状と課題		担い手・役割（資金）	取組（事業・活動）	計画推進のための改善策	目標								
現状と課題（H19）	指標の推移（H20）				めざす姿や状態（H29）								
<p><b>○市民活動の参加意欲の高まり</b> 福祉分野のボランティアをはじめ、除雪ボランティアや学校支援ボランティアなど、さまざまな分野でさまざまなボランティアなどの市民活動が広がってきています。市民活動への参加意欲も高まりつつあり、また、地域に根ざしたNPOなどによるコミュニティビジネスも徐々に広まっていくことが期待されます。市民へのボランティア情報の発信や、団体間の連携が必要となっています。</p> <p><b>○インターネットや電子メールの普及</b> インターネットや電子メールの利用が広く浸透してきており、ホームページから必要な情報を探したり、ホームページを作成したりすることが、身近なものになってきています。インターネットや電子メールの普及により、お互いの情報交換や情報共有がしやすい環境が整ってきています。</p> <p><b>○希薄になりつつある地域コミュニティ</b> 大都市とは異なり、地方では地域における住民同士の交流が比較的盛んに行われてきましたが、人口減少や少子高齢化、核家族化などが進行する中で、地域のつながりも弱まってきており、活動が徐々に難しくなっている自治会や町内会もあるなど、地域コミュニティが希薄になりつつあります。</p> <p><b>○地域主体のまちづくり協議会の活動</b> 地域住民が主体となって、自分たちの地域を見つめ直し、地域住民と行政が一体となって地域づくりに取り組むため、檜山、常盤、鶴形、東能代の各地域でまちづくり協議会が設立され、協働のまちづくりとしてさまざまな活動が進められています。</p> <p><b>○地域福祉のネットワーク</b> 地域のつながりが希薄になっていく中で、子育て、高齢者、障害者などへの支援のニーズは多様化しており、そうしたニーズに応えていくためには、地域の中で支え合い、助け合うことができるよう、住民、民生委員・児童委員、社会福祉協議会をはじめ、地域の関係団体などが連携した地域福祉ネットワークづくりが必要となっています。</p> <p><b>○自治会と町内会、二ツ井地域に地域協議会</b> 合併前の能代市と二ツ井町では、自治会・町内会への支援や、行政との協働体制の仕組みが異なっており、合併協議では、従来からの経緯や実情を踏まえ、合併後に調整することとしています。二ツ井地域に地域住民の意見を反映させるため、地域自治会を設け地域協議会を置いています。地域協議会は、地域に根ざした活動を通じて、多様な意見の調整や身近な地域づくりを行うかなめとされています。</p> <p><b>○本市の特色を活かしたまちづくり</b> 全国制覇58回の偉業を誇る能代工業高校バスケットボール部の活躍により、「バスケの街のしろ」が全国的な知名度を高めています。また、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の能代多目的実験場の縁で関係する市町と交流しているほか、宇宙イベントを支援し、参加する学生を通じて交流を進めています。</p>	<p>自治会・町内会やボランティア活動など市民活動に参加することを心がけている市民の割合</p> <table border="1"> <caption>市民の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>37.8%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>39.3%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>50.0%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	H19	37.8%	H20	39.3%	H21	50.0%	市民	<p>○ボランティアセンターに登録するなど、積極的にボランティア活動を行う</p> <p>○自治会・町内会活動に積極的に参加する</p> <p>○地域の活動として、学校行事や運動会、こども会などに参加する</p>		<p>○ボランティアなどの活動をしやすい環境があり、情報や目標を共有できて交流や連携が進むこと。</p> <p>○自治会や町内会などの活動が活発になり、地域の課題解決や、地域資源を活かした身近なまちづくりにつながること。</p> <p>○普段から地域で交流や協力、支え合いがあり、地域コミュニティが良好であること。</p>
	年度	割合											
	H19	37.8%											
H20	39.3%												
H21	50.0%												
		ボランティアセンター、ボランティア団体等	<p>○ボランティア同士の情報交換や、各種情報をホームページやメールマガジンで受発信するなど、ボランティアをコーディネートする機能を強化する</p> <p>○地域の行事やイベントを開催し、地域住民の連帯感を高める</p> <p>○活動が困難な自治会・町内会を再編し、活動できる組織にする</p>										
		自治会・町内会、まちづくり団体等	<p>○ボランティアなど地域貢献活動を主体的に展開する</p> <p>○企業も地域の一員として地域の活動に参加する</p> <p>○従業員に対してボランティア意識を啓発する</p>										
		自治会・町内会等	<p>○活動が困難な自治会・町内会を再編し、活動できる組織にする</p>										
		事業者等（生産者等含む）	<p>○ボランティアなど地域貢献活動を主体的に展開する</p> <p>○企業も地域の一員として地域の活動に参加する</p> <p>○従業員に対してボランティア意識を啓発する</p>										
		行政機関	<p>○市民の知識・経験を活かせる仕組みをつくる</p> <p>○自治会・町内会などの地域活動を支援する</p> <p>○地域の課題を解決するための効果的な事例を紹介する</p>										